

# volunteer

ボランティア

ボランティアセンターだより

2014.11

大崎市ボランティアセンター

## サマーチャレンジボランティア 2014

サマーチャレンジボランティア事業は、市内の小学5年生から中学3年生を対象に、夏休み期間を活用したボランティア活動体験を実施し、福祉やボランティアに対する理解を深め、ボランティア活動へのきっかけや福祉の心を育み支え合い・助けあい大切さを学び、その観点から防災への備えや意識の向上を図り、共に考える場とすることを目的として実施しております。

今年度は市内各小中学校より、40名の児童・生徒の皆さんにご参加いただき、8月5日(火)古川農村環境改善センターにてサバイバルメシ炊き体験やクロスロードといった災害時に役立つ体験、被災地へ贈る七夕飾りの作成を行い、7日(木)には、東日本大震災で大きな被害を受けた名取市関上を訪問し、現地の方から震災時のお話を頂きました。

2日間の体験を通じて、参加された皆さんが何を感じ、何を学んだのか？活動レポートと共にお届けいたします。



### 体験①「防災クロスロード」



第一日目、最初の体験となった「防災クロスロード」とは、カードを用いたゲーム形式による防災教育教材であり、カードに書かれた事例(災害対応)を自らの問題としてアクティブに考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、自分とは異なる意見・価値観の存在への気づきも得られるグループゲームです。

皆さん、初めて会った同士でも、積極的に意見を出し合う姿がとても印象的でした!

### 体験②「サバイバルメシタキ体験」



「サバイバルメシタキ体験」とは、空き缶をコンロ代わりにし、牛乳パックを燃料として行う炊飯体験です。まずは、空き缶を利用したコンロ作り、燃料となる牛乳パックを短冊状に切る作業を行います。コンロが出来上がったら、早速、炊飯体験です。

炊飯では、火を絶やさないと重要ですが、途中で火が消えたり、うまく燃料が燃えなかったりと悪戦苦闘しながらも、皆さん、上手にご飯を炊き上げ、カレーライスにておいしくいただきました。

一生懸命作ったご飯の味は格別だったようです!

また、参加された皆さんからは「日頃からの備えがとても大切だと改めて感じた」「災害に遭遇した際には、身近な人や困っている人の力になりたい」といった声が聞かれ、いつ起きるか分からない災害への対策として、実践的な体験となりました。



### 体験③「被災地への贈り物」～七夕飾り作成～



第二日目の名取市関上を訪問する際に、被災された皆様へ贈る「七夕飾り」の作成を行いました。「被災地の皆さんへ少しでも元気を届けたい。」と、児童・生徒の皆さんがそれぞれアイデアを出し合いながら、一生懸命、作成しておりました。

### 体験④「被災地をたずねて」～名取市関上の記憶～



8月7日(木)第二日目は、東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸部の名取市関上に訪問してきました。

震災の記憶を後世に伝えるため、語り部として活動されている地域のボランティアの皆様にご協力をいただき、被災当時のお話や被害を受けた場所を訪れ、犠牲になられた方々へ献花を行い、ご冥福をお祈りいたしました。

初めて見る被災地の光景に暫しの間、言葉を失いそうになりながらも、しっかりと関上の記憶をそれぞれの目に、そして、心に焼き付けておりました。

また、5日にみんなで作った七夕飾りを旧関上中学校に飾っていただきました。



二日間の体験を通じ、目で見て、頭で考え、そして実際に活動を行い「福祉」や「ボランティア」についての関心を深めると共に、「協力し合う・支え合う」ことの大切さ、そして、「自分に出来ることは何か?」ということを感じて頂けたと思います。

本会としても、今後の体験学習に活かしていけるよう、様々な視点から体験が出来るようなメニュー作りに励んで参ります。

二日間に渡り、参加された児童・生徒の皆さん、ご協力をいただきました皆様、ありがとうございました。

